

学校だより



津市立楡形小学校
R5. 3. 8 発行
第16号 文責：校長

3月は、様々な生き物が新たな息吹を感じて活動を始め、花開く春がやってくる時期です。私たち人間にとっても、新たな目標に向けて旅立つ時期でもあります。一年間、四季の移ろいの中で成長をした子ども達には、春の新たな息吹を胸に抱いて、それぞれ一つ上のステージへとステップアップしてほしいと思います。

早いもので卒業式まで授業日は残すところあと7日です。修了式までの授業日はあと11日です。近くの小学校では、インフルエンザによる学級閉鎖が出ています。1日の気温差が大きい時期なので、体調管理に気をつけて、令和4年度の締めくくりの日々を有意義に過ごしてほしいと思います。



10代の子どもが育つ魔法の言葉

卒業式を目前にして、ドロシー・ロー・ノルトが書いた「10代の子どもが育つ魔法の言葉」を紹介したいと思います。

10代の子どもが育つ魔法の言葉

子どもの声に耳を澄ましてください。

プレッシャーをかけ過ぎると、子どもは疲れてしまう
厳しいルールを押しつけられ、子どもはルールを破る方法を探す
好き勝手にさせると、子どもは人の気持ちに鈍感になる
失敗を繰り返すと、子どもは自信を失う
約束を破られると、子どもは失望感を味わう
否定されると、子どもは苦しむ

ひとりの人間として大切にされれば、子どもは思いやりのある人間になる
親を信頼できる子どもは、本当のことを話してくれる。
大らかな家庭に育てば、子どもは考える力をはぐくむ
先のことを考えて行動できれば、自分の行くべき道が見える
責任感を育てれば、子どもは自分で考えて行動できるようになる
親が身体にいい習慣をもっていれば、子どもも自分の身体を大切にする
支えてあげれば、子どもは自分に自信をもつようになる
表現できる場をもてば、子どもは本当の自分を出せる
愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ
子どもを信じて見守れば、子どもはよりよい世界を目指して歩いてゆける

「10代の子どもが育つ魔法の言葉」(ドロシー・ロー・ノルト/レイチャル・ハリス著)より引用



10代の子どもが加害者となる痛ましい事件が続いています。思春期の子どもの心は、大きく揺れ動きます。子どもたちの問いかけに、難しい判断を迫られることもあるのではないのでしょうか。そんな時、私たち教職員も、共に考えたいと思っています。子どもさんのことについて、お気軽にご相談ください。

新時代へ～6年生は最強へ

今年の6年生を送る会のテーマです

6年生を送る会



1・2年生が描いた6年生の似顔絵



4年生の力作 ～プログラム



3年生vs6年生 ビッグ福笑い

感謝と信頼のバトンパス

3月は、リレーに例えるとバトンゾーンかもしれません。一人一人が一学年上の自分にバトンを渡す月です。また、学校全体の役割でいえば、6年生が5年生に、5年生は4年生に.....2年生は1年生に、バトンを渡す月でもあります。6年生はこれまで楡形小学校のリーダーの役割を果たしてきてくれました。このバトンは重かったかもしれませんが、走りにくかったかもしれませんが、しかし、このバトンを持ってしっかりと走り切ることで、思いやりや優しさ、責任感、中学校に向けての自覚等を身に付けていきます。そして、5年生は、このバトンを引き継ぎます。もしかしたら、最初は、6年生のようにじょうずに速くは走れないかもしれませんが、でも、バトンをしっかりと受け取り、次につなぐように頑張ってくれることでしょう。卒業式に向けての準備や練習風景を見ていると、そんなことを感じます。



式場づくりに励む4年生と5年生 ～バトンを受け取る準備は出来ていますね～